

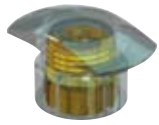
ダルボプラス 構成パーツ

■ダルボプラス ベーシックフィメール(グレード4・純チタン製)



ラボサイドでの取り付け用です。このフィメールはハウジング内にレジンを重合することもレジンボンディングすることも可能です。デュプリケーションエイドはレジンボンディングする場合のスペースを確保するためのパーツです。

■ダルボプラス エリプティックフィメール(グレード4・純チタン製)



このフィメールは口腔内で取り付ける場合に適しています。チェアサイドでフィメールを取り付けた場合は、レジンの強度が弱くなる場合が多いので、維持部が大きくデザインされたこちらのフィメールの使用をお勧めします。

■ラメラリテンションインサート(エリトア製)

フィメール内にネジ止めにより取り付けます。この特殊なインサートはゴールド色のエリトア製で、リテンションエレメントとして効力を発揮し、長期に渡って機能します。例えばボールアンカーの直径が経年的な摩耗により減少している場合でも、最適なタイプを選択することによって維持力を回復し、長期に渡って機能させることが可能です。

■ダルボメールV(パロア製)



貴金属合金に対し鑄接、もしくはろう着により根面板に取り付けます。
《注意》
レーザー溶接は不可です。

(準備) 根面板のワックスアップを行います。支台の数が複数の時は、その根面板は義歯の着脱方向に対して直角にしてください。鑄接にはプレシャスメタルの使用を推奨します。

メールパーツの取り付け

ろう着や鑄接後は、徐冷することによって硬化熱処理をしなくても適切な機械的強度が得られます。サンドブラストやポイント削合する時は、メールを傷つけないようにデュプリケーションエイドで保護作業を行ってください。

■メールパーツの鑄接

平行マンドレルで根面キャップのできるだけ中央に正確に設置してください。

■メールパーツのろう着

平行マンドレルによりメールパーツを出来るだけ根面板の中央に設置します。鑄接後、審美性を考慮しながら根面板を平滑にミリングします。ろう着間隙は0.05-0.2mmにします。ろう着用埋没剤でしっかり保持されるようにブロックを作り、炎が当たりやすいようなデザインにしてください。

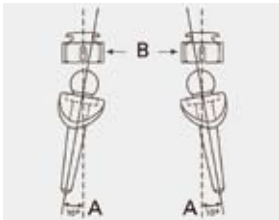


図1

★Point
メールパーツの傾斜が10°以内であれば、平行マンドレルを使用する必要はありません(図1-A)。

フィメールパーツの取り付け

スズ製のスペーサーディスクは、義歯の垂直方向の受圧性を調整するために使用します。レジンを重合を行う前に根面板を設置します。レジン重合後は、スペーサーディスクを取り外します。

《注意》

エリプティックフィメールは維持装置が大きいので、スペーサーディスクで確保した空間には適合しません。もし必要ならばごくわずかを削り落とすことはできますが、義歯内での維持力は減少してしまいます。

《注意》

レーザー溶接は強度を弱くしますので行わないでください。

■ラボサイドでフィメールをレジン重合する場合

レジンが流れ込まないようにワセリンでフィメール部分をブロックアウトします。複数の支台がある場合、フィメールはメールに対し平行になるように設置してください(図1-B)。

■ラボサイドでフィメールをレジンボンディングする場合

ダルボプラス ベーシックフィメールには赤いデュプリケーションエイドが付属しており、レジンボンディングのための理想的なスペースを確保できます。フィメールが収納される金属床部分はトリミングし、フィメールの方は酸化アルミナによりサンドブラストしてください。その後フィメールを金属床内にレジンボンディングしてください。

■口腔内でフィメールを取り付ける場合

この場合は、ダルボプラス エリプティックフィメールを使用してください。フィメールを取り付ける前に、義歯にフィメールが納まる部分は適切なスペースを作ってください。アンダーカットは確実にブロックアウトし、フィメールは平行に取り付けてください。

ラメラリテンションインサートの取り付け



図2

図3

図4

維持力の活性化や減少化のためには専用のスクレイドドライバー／アクチベーターが必要です。フィメールの維持力は最少で200g(図2)から最大で1200g(図3)に調整してください。

《注意》

ラメラリテンションインサートは、フィメール基底面からはみ出ないようにしてください(図4)。

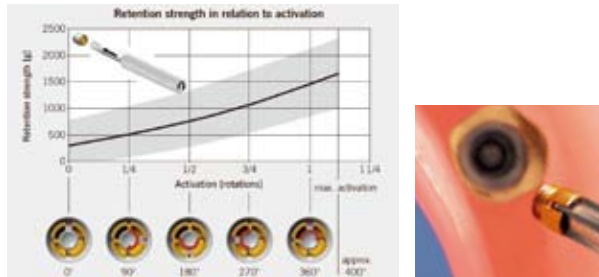


図5

最も高い維持力は1回半時計回りに回転させることで得られます。目安として1/4回転で200gずつ維持力を増加させることができます(図5)。必要に応じてラメラリテンションインサートを交換します。口腔内のボールアンカーが摩耗している場合は、調整用のラメラリテンションインサート(チューニングソフトorチューニング)に取り替えます。

義歯の修理

フィメールは下記手順によりヒートングロッドを使用して取り外します。

■手順

- [1] ラメラリテンションインサートを外します。
- [2] フィメールのハウジングの中にヒートングロッドを挿入します。
- [3] フィメール周囲のレジンが軟化するまでブレンジャーでヒートングロッドの反対側を加熱します。
- [4] プライヤーでフィメールごと取り外します。

《注意》

レジンボンディングした場合は、取り外すための加熱温度はさらに高くなければなりません。

ラメラリテンションインサート・維持力の調整

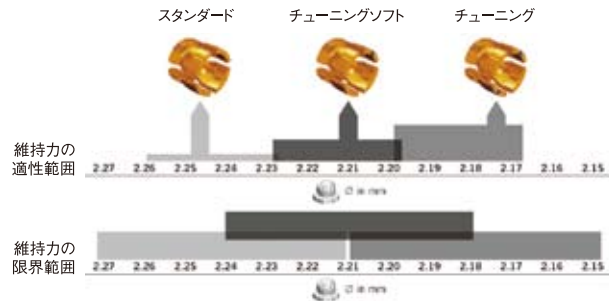


図6

CM社による2.25mmの直径を持つボールアンカーは40年以上の歴史があり、市場において現在のスタンダードとなっています。しかし他社の製品をテストした結果、材料の違いや規格の違いによってはダルボプラスの維持力を減少させてしまう可能性があることがわかりました。このため、CM社は従来のもから2種類のラメラリテンションインサートをさらに追加し維持力の増加をはかることにしました。ラメラの先端には違いがわかるよう溝をつけており、スタンダードのラメラリテンションインサートと区別できるようになっています(図6)。

- ラメラリテンションインサートスタンダード…ノーマルフリクション
- ラメラリテンションインサートチューニングソフト…ハイフリクション
- ラメラリテンションインサートチューニング…エクストラハイフリクション

最適なラメラリテンションインサートの選択基準



その他



維持力の調整を容易にするダルボゲージセット

- ダルボメールゲージは、義歯内フィメールの維持力を計測します。
- ダルボフィメールゲージは、3種類のどのラメラリテンションインサートが適切かをチェアサイドにおいて調べるためのインストルメントです。